

授業科目名	単位数	学習形態
教 職 論	2単位	レポート・科目試験
授業のテーマ及び学習成果		
<p>現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職（保育）の意義、教職者（保育者）の役割・資質能力・職務内容等についての理解を深める。さらに、教職（保育）は、子どもの成長発達に指導、援助する仕事であることを理解し、教育（保育）への課題に関心を持ち、授業に関わる専門性について学ぶとともに、あるべき教育（保育）のビジョンを明確にすることを主要なテーマにし、自分が目指す教職者像の確立を図る。</p> <p>《学習成果》</p> <p>レポ ー ト：時代の変化に対応した教員養成の在り方を理解し、教職者に求められる専門性について論じることができる。</p> <p>科 目 試 験：教職者に求められる資質や能力、教職の在り方などの基本的事項について理解している。</p>		
授業の概要		
<p>本授業は望ましい教職者（保育者）とは何かを希求し、その実現のために何を学び、理解し、身に付けなければならないかを主要なテーマにする。具体的な授業の内容は、教職者の資質、専門性、制度的位置付け、子ども理解、教職の内容と遊び、計画と相互的な指導、援助の在り方、教職者間の協働、保護者への支援と連絡、地域社会や専門機関・小学校との連携などである。理論に基づいた実践、実践で確かめレベルアップされた教職理論の理解を深め、教職者としての意欲、態度、自覚を高める授業の展開をする。</p>		
実務経験の概要		
授業計画 テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職（保育）の意義・定義・教職（保育）者とは何か 2. 教職（保育）者に求められる資質・能力 3. 教員（保育者）養成の歴史 4. 教職（保育）者の資質と役割 5. 指導計画（保育のねらい・内容） 6. 教職（保育）者の仕事・義務・研修 7. 教職（保育）者の職場環境 8. 教職者の制度的な位置付け 9. 教職者の任用と服務 10. 教育（保育）現場におけるこどもとの関わり（あそび・環境） 11. 教育（保育）現場における家庭との連携・支援、地域との連携 12. 教職（保育）観の変遷と教員（保育者）の役割 13. 職員間の連携、保育園、幼稚園、小学校との連携（接続カリキュラム） 14. 今日的な教育課題に対応するために（「チーム学校」等） 15. よい教職者（保育者）になるために（教育実習への心構え） 		
テキスト		
<p>「教職論」（配本テキスト）</p> <p>「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p> <p>「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p>		
参考書・参考資料等		
特になし		
学生に対する評価		
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）</p>		

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
教 育 原 理	2 単位	レポート・科目試験
授業のテーマ及び学習成果		
<p>教育の思想とその作用、また我が国の教育制度・理念・歴史について学ぶことにより、教育の課題と可能性についての理解を深めること及び学校教育に関する社会的、制度的事項を理解し、地域との連携並びに学校安全に関する理解を深めることを目標とする。</p> <p>《学習成果》</p> <p>教育の課題と可能性についての理解を深めること及び学校教育に関する社会的、制度的事項を理解し、地域との連携並びに学校安全に関する理解を深めることを目標とする。</p> <p>レポ ー ト：レポート作成を通じて教育原理に関する知識を習得・整理するとともに自身の意見を考えることができる。</p> <p>科 目 試 験：教育原理に関する体系的な知識を習得しており、それに対する自身の意見を持ち、文章で表現することができる。</p>		
授業の概要		
<p>教育の基本的概念、理念、歴史及び思想について学ぶことにより、どのように教育及び学校が生まれ、変遷してきたかを理解する。また、現代の学校教育に関する社会的及び制度的な仕組みを学ぶことにより、学校と地域の連携及び学校安全に関する意義や必要性を理解する。</p>		
実務経験の概要		
授業計画 テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> 1 教育、教育原理の意義・目的・特性とこども家庭福祉等との関連性 2 世界の教育思想①ソクラテス～ルソーの思想・実践 3 世界の教育思想②ヘルバルト～デューイの思想・実践 4 日本の教育思想 5 子どもの発達と教育 6 子どもの権利 7 制度から見る保育所、幼稚園、認定こども園 8 内容から見る保育所、幼稚園、認定こども園 9 世界における教育の歴史的変遷 10 日本における教育の歴史的変遷 11 公教育制度、義務教育制度 12 教師という仕事、教授法 13 教育における今日的課題①学習指導要領の改訂に伴う幼児教育の変化 14 教育における今日的課題②危機・安全管理カリキュラム、アクティブラーニング 15 教育における今日的課題③学校外との連携 		
テキスト		
<p>「教育原理」(配本テキスト)</p> <p>「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p>		
参考書・参考資料等		
特になし		
学生に対する評価		
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用い行う)</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用い行う)</p>		

授業科目名	単位数	学習形態
教育心理学	2単位	レポート・科目試験・スクーリング

授業のテーマ及び学習成果

教育心理学は、教育と乳幼児期から青年期を中心とした人の発達について心理学的に理解していく学問である。本講義では、発達に関する代表的な理論を踏まえた上で、教育における発達の意義と理解を土台にして、子どもの主体的な学習を支える学習の仕組みと動機付け、指導方法と実践活動について学びを進めていく。また子どもを取り囲む環境との相互作用により育ちゆく子ども達にとって、重要な集団作りと評価についても取り扱っていく。基礎的な知識を十分に理解した上で、その内容を子どもの育ちを支える教育・保育実践に活かす力を修得していく。

《学習成果》

- レポート：教育心理学における学習のしくみを理解し、教育・保育場面での活用方法を自分の考えで説明することができる。
- 科目試験：教育心理学における基礎的知識を理解し、教育・保育場面での活用方法を概説することができる。
- スクーリング：教育・保育場面の様々な事象を心理学的に理解し、教育・保育実践に応用することができる。

授業の概要

教育心理学における発達と学習の領域を中心に、「教えること」「育てること」に関する心理学的な考え方を紹介する。「発達」では、乳児期から青年期までの発達の特徴について、「学習」では、学習・動機づけの理論、実際の教育・保育現場での指導・評価方法について解説する。

実務経験の概要

授業計画 テキストによる通信授業とスクーリングによる面接授業

【通信授業】

1. 教育心理学を学ぶ意義
 - ①教育心理学における発達、学習、適応、評価と測定
 - ②教育心理学の四大領域を学ぶ意義
2. 発達の考え方とその理解
 - ①生涯発達心理学の概念
 - ②各段階における発達の特徴（運動、言語、認知、社会発達）
3. 学習の仕組み
 - ①連合説と認知説
 - ②様々な学習理論の応用
4. 主体的な学習を支える「やる気」
 - ①内発的動機付けと外発的動機付け
 - ②学習性無力感と自己効力感
5. 集団での学習とその評価
 - ①学習指導の形態
 - ②評価の仕方とその意義
6. 動機付けからみる発見学習の仕組み
 - ①発見学習の手続き
 - ②発見学習により動機付けが高まる理由
7. 教育心理学に基づく保育実践

【面接授業】

8. 発達課題に応じたかわり
 - ①各段階の発達の特徴
 - ②エリクソンの発達課題
9. 子どもから大人への思考様式の変化
 - ①ピアジェの認知発達理論
 - ②思考発達段階ごとの特徴
10. 学びを支える記憶
 - ①感覚記憶、短期記憶、長期記憶
 - ②単純記憶から複雑記憶への変化
11. 子どもの学びの姿
 - ①日常生活からみる学習理論
 - ②オペラント条件付けを利用した保育実践

12. 子どものやる気を引き出す指導の在り方
①指導者の態度（ピグマリオン効果） ②様々な学習形態とその効果
13. 子どもの遊びの重要性
①遊びの変化 ②遊びを通じた社会性の発達
14. 子どもと道徳
①幼児期に迎える第一次反抗期と自立 ②道徳の指導方法
15. 教育心理学を用いた環境づくり

テキスト

「教育心理学」（配本テキスト）
「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレール館）
「保育所保育指針解説」（最新版）（フレール館）
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレール館）

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

【通信授業】

学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する
（評価はルーブリック評価を用いる）

科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する
（評価はルーブリック評価を用いる）

【面接授業】

科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する
（評価はルーブリック評価を用いる）

※科目試験50%、スクーリング50%の平均により成績評価を行う

授業科目名	単位数	学習形態
特別支援教育	1単位	レポート・科目試験
授業のテーマ及び学習成果		
<p>特別な教育的ニーズのある子どもを含めたすべての子どもが幼稚園・保育所の中でそれぞれの自主性・自発性を発揮し生きる力の基礎を培えるようにするため、特別な教育的ニーズのある子どもの生活等における困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。</p> <p>《学習成果》</p> <p>レポート：「教育的ニーズ」とは何かを理解し、「ニーズに応じた教育・支援の展開」とはどのようなことを説明できる。視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱および保護者や家庭を取り巻く問題、母国語や貧困にかかわる問題など、特別な教育的ニーズのある子どもの生活等における困難についての基礎的な知識を説明することができる。</p> <p>科目試験：特別な教育的ニーズのある子どもの特性を説明できる。様々な家庭に関わる保育者の基本的知識としての法的知識や実際の関わり方を示すことができる。個別の教育計画の役割を踏まえながら例示することができる。特別支援教育コーディネーターの役割について説明することができる。</p>		
授業の概要		
<p>特別な教育的ニーズを持つ子供を支援するにあたって、子供自身の特性を理解するのはもちろん、子供を支援するために必要な社会的資源や関係機関についての知識、個別の教育支援計画の作成方法とその利用方法、教育課程と学びと生活の場のあり方についても理解を深めるよう、特別支援教育に関わる幅広い内容を示す。</p>		
実務経験の概要		
授業計画 テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> 特別な教育的ニーズを持つ子供への教育課程（特別支援教育とは） <ol style="list-style-type: none"> ① 特別な教育的ニーズとは何か ② 特別支援教育課程と学びの場 発達障害や軽度知的障害を持つ子供の特性 <ol style="list-style-type: none"> ① 発達障害や軽度知的障害の心と体の育ち ② 子供一人ひとりのニーズに合わせた学び 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある子供の特性 <ol style="list-style-type: none"> ① 多様な子供のニーズの理解 ② 多様な子供の学びと生活 子供のニーズに合わせた支援 <ol style="list-style-type: none"> ① 教育課程における支援 ② 通常の学級における担任による支援 教育チームによる組織的支援 <ol style="list-style-type: none"> ① 個別の指導計画及び個別の教育支援計画 ② アセスメントに基づく計画と評価 特別支援教育コーディネーター <ol style="list-style-type: none"> ① 特別支援教育コーディネーターの役割 ② 外部教育資源との連携と協働 保護者・家庭支援と連携 <ol style="list-style-type: none"> ① 保護者・家庭をとりまく問題 ② 保護者・家庭とのつながりの重要性 特別な教育的ニーズを考える（現代的な視点から） <ol style="list-style-type: none"> ① 母国語や貧困の問題等による教育的ニーズの理解及び支援 		
テキスト		
<p>「特別支援教育」（配本テキスト）</p> <p>「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレール館）</p> <p>「保育所保育指針解説」（最新版）（フレール館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレール館）</p>		

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する
(評価はルーブリック評価を用いる)

科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する
(評価はルーブリック評価を用いる)

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
発 達 心 理 学	2 単 位	レポ ー ト ・ 科 目 試 験
授業のテーマ及び学習成果		
<p>学習者は、実際の保育活動や、対人支援活動の中で生かせる様な知識を身につけることができる。特に、発達心理学の基礎的な理論および保育活動に重要な乳幼児期について重点的に学ぶ。加えて、発達は生涯を通じて起こるものであることを理解し、生涯発達についての概観的知識を得る。</p> <p>《学習成果》</p> <p>レポ ー ト：発達心理学の定義、発達心理学を学ぶ意義、発達心理学の具体的知見、および発達心理学の実践的活用方法を示すことができる。特に、遊びの発達、ピアジェの発達心理学について説明できる。</p> <p>科 目 試 験：発達心理学にかかわる基本的な用語を理解し、説明できる。特に乳幼児期の発達段階について詳細に分類し、それぞれの時期の特徴について説明できる。</p>		
授業の概要		
<p>発達心理学の定義および発達心理学にかかわる基本的な用語の解説、および生涯にわたる発達についての概要を示す。特に乳幼児期については、発達の知見に加え、学習の意義や実践的な保育への活用法について併せて検討する。</p>		
実務経験の概要		
授業計画 テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達心理学の定義、発達心理学で学ぶ内容の概要 2. 発達はどのように起こるか：遺伝説と環境説、それらの複合説について 3. 動物における生理学的欲求とは異なる社会的行動について 4. ボウルビーによる愛着理論と、愛着の発達 5. ストレンジシチュエーション法と、愛着理論の保育への活用 6. 乳児期の発達：反射と表象の形成（ピアジェの感覚運動期を中心に） 7. 乳幼児期の発達：表象の発達と、認知発達の特徴（ピアジェの前操作期を中心に） 8. 幼児期から児童期の発達：運動・言葉・情緒・遊びの発達、自己認識や社会性の拡張 9. 児童期・青年期の発達：社会性の拡張と、アイデンティティの確立 10. 成人期の発達：親密性の確立と、現在の社会から見る青年期の課題・人間関係の課題 11. 壮年期・老年期の発達：人格の完成と、死の受容 12. ハヴィガーストおよびエリクソンの発達課題から見る生涯発達心理学 13. 発達心理学と教育学の関連：児童の発見から学校への適応まで 14. 保育に活用できる発達心理学：発達課題、発達段階の理解による保育計画 15. 自身の学びに活用できる発達心理学：生涯発達という観点から見て、自分自身の発達を捉える 		
テキスト		
<p>「発達心理学」（配本テキスト）</p> <p>「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p>		
参考書・参考資料等		
<p>「史上最強図解よくわかる発達心理学」林 洋一監修（ナツメ社）（ISBN：9784816349324）</p>		
学生に対する評価		
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。 （評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）</p>		

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
教育課程論	2単位	レポート・科目試験
授業のテーマ及び学習成果		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の内容の充実と質の向上に資する教育課程・保育課程について理解する。 2. 教育課程・保育課程の編成と指導計画の作成について、意義や方法を具体的に習得する。 3. 編成・実践・点検・評価・改善の過程についてその全体像を能動的にとらえ、カリキュラム・マネジメントの意義を理解する。 4. 保護者や関係機関との連携について学ぶ。 		
《学習成果》		
レポ ー ト：幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷について理解できる。 教育課程・保育課程を編成するにあたっての留意事項及び評価・改善の方法について理解できる。		
科 目 試 験：教育課程・保育課程の編成の手順について理解できる。 幼児教育の内容の充実と質の向上に資する教育課程・保育課程について理解できる。 指導計画の種類や指導計画を作成する上での留意点について理解できる。		
授業の概要		
幼児、こどもを育てる上で、大切なこと（目標）、どのような方法・手立て（方針）、どのような内容で、どの時期に、どんな環境で、等々を学ぶ。幼児教育・保育における教育課程・保育課程の意義と役割を明らかにする。		
実務経験の概要		
授業計画 テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程・保育課程編成の基本的な考え方、意義と必要性 2. カリキュラムの基礎理論 3. 日本における教育課程・各国の教育課程の変遷 4. 時代の変化に対応した幼稚園の教育課程の在り方、編成と評価 5. 教育課程の法と行政 6. 学習指導要領の変遷とその特色 7. 園生活と長期・短期の指導計画 8. 教育課程・保育課程編成の実際 9. 保育の基本と実践（記録及び省察による教育・保育の質向上） 10. 学びをつなぐ幼・保・小連携カリキュラム 11. 明治・大正・昭和前期、後期の保育の歴史 12. 危機管理保育のカリキュラムの意義と必要性 13. 幼稚園教育要領、保育所保育指針の変遷 14. 教育課程をめぐる諸問題 15. 信頼される園づくりと学校評議員制度 		
テキスト		
「教育課程論」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレール館） 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレール館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレール館）		
参考書・参考資料等		
「教育課程・保育計画総論」田中亨胤、佐藤哲也編著（ミネルヴァ書房）（ISBN：9784623047161）		

学生に対する評価

学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する
(評価はルーブリック評価を用いる)

科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する
(評価はルーブリック評価を用いる)

授業科目名	単位数	学習形態
保育内容総論	1単位	レポート・科目試験
授業のテーマ及び学習成果		
<p>保育所や幼稚園、認定こども園における「保育」の全体的構造について理解し、各領域の保育内容を総合的にとらえる視点から、乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助等について保育の流れを概観し、保育実践と結びつけながら学ぶことを目的とする。</p> <p>《学習成果》</p> <p>レポート：現在に至る保育内容の歴史の変遷を、自分の言葉で説明することができる。</p> <p>科目試験：保育内容の構造を理解し、領域の考え方や「養護と教育の一体性」、保育内容の現代的課題の子育て支援について論じることができる。</p>		
授業の概要		
<p>保育内容総論では、領域別の授業で学んだ内容を実際の子どもの姿や保育場面に結び付けて総合的に理解する。保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育内容の基本的理解が深まるよう、具体的な事例をもとに解説する。</p>		
実務経験の概要		
<p>栗岡明美：幼稚園33年、三沢妃佐江：幼稚園30年、徳安 敦：幼稚園4年、位田かつ代：保育園26年</p>		
授業計画 テキストによる通信授業		
1. 保育の全体的構造	①育みたい資質・能力の三つの柱と幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿	
2. 保育内容の歴史の変遷	②領域の考え方と乳児保育の領域 ①変遷にみる特徴 ②変遷にみる課題	
3. 養護と教育の一体的展開	①養護のなかかわりと教育的なかかわり	
4. 乳幼児期にふさわしい生活と保育内容	①乳幼児にとっての園行事の意味と在り方 ②保幼小の円滑な連携	
5. 生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開	①環境を通して行う保育 ②遊びによる総合的な保育	
6. 全体的な計画の作成と指導計画の作成	①全体的な計画の作成 ②指導計画の作成手順と配慮	
7. 保育の評価と保育の記録	①幼児理解に基づく評価 ②観察記録を書く意味と幼児理解	
8. 保育内容の現代的課題について	①子育て支援 ②多文化共生保育	
テキスト		
<p>「保育内容総論」(最新版)(配本テキスト)</p> <p>「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p>		
参考書・参考資料等		
<p>「3法令改訂(定)の要点とこれからの保育」無藤 隆著(チャイルド本社)平成29年告示2017年 (ISBN:9784805402597)</p> <p>「3法令ガイドブック」無藤 隆・汐見稔幸・砂上史子著(フレーベル館)(ISBN:9784577814253)</p>		
学生に対する評価		
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。 (評価はルーブリック評価を用いる)</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)</p>		

授業科目名	単位数	学習形態
こどもの指導法「健康」	1単位	スクーリング
授業のテーマ及び学習成果		
<p>乳幼児期は、生涯を見据え健康な心身の基礎を作る重要な時期である。子どもの健康を守り育てるためには、実際の保育現場で子どもの発育発達をいかに捉え、いかなる内容についていかに指導し支援することが効果的かを理解する必要がある。本授業では、子どもの個々の健康状態を評価する能力を多領域から養うことを目的とする。</p> <p>《学習成果》</p> <p>スクーリング：乳幼児の健康づくりに関わる重要な要素について理解し、計画性を持って保育現場で応用ができるような知識・知力を養うことを目標とする。</p>		
授業の概要		
<p>乳幼児期の健康に関する幅広い知識と個々の発育発達の状態に合った配慮の仕方、子どもが健康でたくましく育つための具体的な方法について、現代社会の子どもを取り巻く生活環境にも目を向けながら子どもの積極的な健康づくり指導を目指す。</p>		
実務経験の概要		
授業計画 スクーリングによる面接授業		
<p>第1回：領域「健康」の意味（保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領のねらいと内容の理解）、保育の意義と児童観</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもの姿を「みる」「みきわめる」そして、「かかわる」ことからの「こども理解」 <p>第2回：乳幼児の心身の発育発達、幼児期の心の発達、幼児期の身体発達</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達過程に応じた保育、全体計画編成の基本 <p>第3回：子どものこころの健康、こころの発達とストレスのサイン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康と虐待 <p>第4回：基本的な生活習慣の獲得、幼児の生活スタイルの現状と問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育に関する指導案を作成し、幼児の健康理解を図る <p>第5回：子どもの遊びの発達と健康、幼児の遊びを豊かにするための保育者の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達に応じた遊びの指導案作成と模擬保育の振り返りからの理解 <p>第6回：安全管理と安全教育、交通安全指導、避難訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報機器及び教材を活用した幼児の安全理解 <p>第7回：健康と自然環境、園外保育の活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園外保育の指導案作成と模擬保育による留意点の学び、視聴覚教材を利用した自然環境の理解 <p>第8回：保幼小連携と保育内容「健康」のまとめ</p>		
テキスト		
<p>「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p> <p>「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）</p> <p>「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p>		
参考書・参考資料等		
特になし		
学生に対する評価		
<p>科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する（評価はルーブリック評価を用いる）</p>		

授業科目名	単位数	学習形態
こどもの指導法「人間関係」	1単位	スクーリング

授業のテーマ及び学習成果

近年わが国では、急速な情報化の進展によりインターネットや携帯電話等を利用した多様なコミュニケーションが頻繁になされるようになった。反面、かつて家庭や地域社会にあった対面での相互交流をとおした豊かな人間関係を築いていく基盤が失われつつある。「ヒト」は人と人との豊かなかかわりをもてるようになることで「人間」になっていく。こどもたちが、人的物的環境にかかわり、主体的に活動をすることや、互いに支え合って生活をしていくことに喜びや充実感を感じるために、保育者の適切な援助方法や「人間関係」についての基礎の習得を目的とする。

《学習成果》

- スクーリング：1. 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」のねらいや内容、内容の取り扱いについて説明できる。
2. 人間関係の発達や自立心・道徳性の発達などこどもを深く理解し、保育実践に応用できる。
3. 養育者・保育者・地域の人々など、こどもを取り巻く人的環境における関係性について考察することができる。

授業の概要

こどもたちを取り巻く「人間関係」のあり方や「保育所保育指針」と「幼稚園教育要領」と「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容の理解を深めるとともに、様々なかかわりをとおした人間関係の発達について実践のエピソードを取り上げ解説していく。

また、保育者としてどのようにこどもの人とのかかわりを育てていくのか、保育者としてこどもとどのような関係性を築いていくのか、こども－養育者、こども－保育者、保育者－養育者、さらには保育者－保育者という様々な関係性について考察していく。

実務経験の概要

授業計画 スクーリングによる面接授業

- 領域「人間関係」
 - ・ねらいと内容及びその取扱い ・保育者としての役割
- 保育者としての環境作りと評価
 - ・こどもの人間関係を見つめる目と環境設定（情報機器含む）
 - ・保育構想と指導案（模擬保育）
- こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助①
 - ・対人意識、自己概念の発達 ・自己理解と他者理解を支える保育者の工夫
- こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助②
 - ・個と集団の育ちの姿 ・こどもの心の拠り所である保育者の工夫
- こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助③
 - ・人とのかかわりとこどもの心の揺れ動きを支える保育者の工夫
 - ・集団におけるこども同士の芽生え、調和を支える保育者の工夫
- こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助④
 - ・こどもの自己発揮・自己抑制を支える保育者の工夫
 - ・こどもの大切な育ちを捉える保育者の視点
- こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助⑤
 - ・こども同士を結び付ける保育者の遊びの役割
 - ・こども同士を結び付ける遊びの保育計画（情報機器を活用した保育計画を含む指導案、模擬保育）
- 地域の人々との多様なかかわりを導く保育計画及び小学校との交流を導く保育計画（情報機器を活用した保育計画を含む指導案、模擬保育）

テキスト

「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館)

「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館)

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する
(評価はルーブリック評価を用い行う)

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
こどもの指導法「環 境」	1単位	スクーリング
授業のテーマ及び学習成果		
<p>保育内容「環境」のねらい及び内容について理解を深めるとともに、乳幼児の発達に即して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>《学習成果》</p> <p>スクーリング：1. 保育内容「環境」のねらいと内容を理解する。 2. こどもを取り巻く様々な環境の理解と関心を持つ。 3. 保育者の役割を常に考え、保育実践力をつける。</p>		
授業の概要		
<p>こどもは、様々な環境の中で生活をしている。それは家庭・地域社会・保育所・幼稚園・認定こども園であり、また「物的環境」「人的環境」「自然環境」「社会環境」の中で生きている。様々な生活経験を通して、人格形成をはじめ思考力・創造力・想像力等を学んでいく。本科目では、環境とは何かを理解しそこにどう関わるかを中心に、保育現場における具体的な事例を挙げて学習していく。</p> <p>また、グループ学習を含め、視聴覚機材を使用し、より深く学んでいく。</p>		
実務経験の概要		
授業計画 スクーリングによる面接授業		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境とは <ol style="list-style-type: none"> (1) 環境という言葉、環境の定義 (2) 環境を通して行う保育の意味 2. 領域「環境」の位置づけ <ol style="list-style-type: none"> (1) ねらいと内容 (2) 指導上の留意点と指導計画、評価の考え方 3. 身近な環境の構成（指導案の構成と作成） <ol style="list-style-type: none"> (1) 指導案の作成による人的環境・物的環境の理解 (2) 視聴覚教材を利用した自然環境、社会・文化環境の理解 4. 保育における環境の重要性と小学校との連続性 <ol style="list-style-type: none"> (1) 好奇心・探究心 (2) 思考力の芽生え 5. 保育環境のデザイン <ol style="list-style-type: none"> (1) 視聴覚教材を利用した室内・室外環境の理解 (2) 指導案作成（実際の指導案作成とデザインを図示指導）と模擬保育の振り返りによる保育環境理解 6. 保育者の3つの役割 <ol style="list-style-type: none"> ①環境要素の一つ ②保育実践から見えるコーディネーターの役割 ③こども同士の関わり合いから考える保育構想 7. さまざまな環境との出会い <ol style="list-style-type: none"> (1) 標識・文字との出会い (2) 数量と図形・ものの性質との出会い 8. こどもの遊びの世界における「3間」の意味と保育の課題（小学校との連携など） 指導案作成における3間（時間・空間・仲間）の重要性と表示方法指導と小学校との連携理解 		
テキスト		
「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレール館） 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレール館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレール館）		

参考書・参考資料等

「新子どもと環境」－理論編 小田 豊監修（三晃書房）（ISBN：9784783080022）

「新子どもと環境」－実技・実践編 小田 豊監修（三晃書房）（ISBN：9784783080039）

「子ども環境から考える保育内容」大橋喜美子・三宅茂夫編著（北大路書房）（ISBN：9784762826917）

学生に対する評価

科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する
（評価はルーブリック評価を用いる）

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
こどもの指導法「言葉」	1単位	スクーリング
授業のテーマ及び学習成果		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「人としてのあかし」と言われる言葉について、乳幼児期の言葉の発達過程を理解することを目的とする。 2. 言葉を用いて思考し、人に話そうとする意欲、他人の話を書く姿勢・態度、小学校の生活に必要な自己表現ができる「言葉」の獲得等について理解することを目的とする。 3. 言葉遊び（わたべうた・なぞなぞ・しりとり等）、文字体験（カルタ・標識・ごっこ遊び）等の活動を通して言葉に対する感覚、言葉のもつ美しさ、楽しさを認識し、理解することを目的とする。 4. こどもの豊かな言葉を育むにはどのようにすべきか、物語・絵本・紙芝居等のイメージーション体験を通して日常的に使用する言葉以外の言葉の獲得のあり方について認識し、理解することを目的とする。 5. 言葉に問題があったり、遅れがある幼児、また外国籍の幼児等について個々に応じた配慮、支援を認識し理解することを目的とする。 		
≪学習成果≫		
スクーリング：		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児期の言葉がどのような過程を経て獲得するか言語環境、非言語環境、信頼できる人とのふれ合い等もふまえて、コミュニケーションを図ることができるようになる。 2. こども自らが言葉を発することの意味を保育者、友達、保護者との関係から認識し理解できるようになる。 3. 乳幼児期の言葉の重要性を、絵本・物語・言葉遊び・文字体験活動等も加え、広範囲に役割が認識できるようになる。 4. こどもの心情・思考や行動などを育む保育者の言動のあり方が認識できるようになる。 5. 言葉の障害、外国籍の幼児について配慮、支援のあり方を認識し、理解できるようになる。 		
授業の概要		
乳幼児期の言葉の発達やそのしくみ、こどもへの先達となる保育者の言葉のあり方、姿勢などについて学習を深めるとともに、文字への興味、言葉の持つ楽しさや美しさ、言語教材についても相互の意見交換や実践的な取り組みを行い、乳幼児期に言葉を獲得することの意義を探究する。		
実務経験の概要		
授業計画 スクーリングによる面接授業		
第1回：幼児教育と言葉		
<ul style="list-style-type: none"> ・言葉とは何か・生活と言葉（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）、言葉環境としての保育者の言葉のあり方 ・領域「言葉」の位置付けと他領域との関わり 		
第2回：乳幼児期の言葉の発達過程と保育者としての評価		
<ul style="list-style-type: none"> ・領域「言葉」指導上の留意点と評価 ・0歳～5歳における言葉の発達、6歳の就学に向けた取り組み 		
第3回：言葉を豊かに育む活動(1)		
<ul style="list-style-type: none"> ・言葉遊びに関する情報機器及び教材の活用法 ・わらべうた、なぞなぞ、しりとり、ごっこ遊び、劇遊び等、言葉遊びによる指導案作成及び模擬保育 		
第4回：言葉を豊かに育む活動(2)		
<ul style="list-style-type: none"> ・言葉から文字へ、文字による環境 ・文字体験としてのカルタ・双六・絵カード等の制作（情報機器活用及び教材の活用）及び模擬保育体験 		
第5回：保育者と言葉のあり方		
<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の遅れや障がいをもつ乳幼児の捉え方と支援 		

・外国のこどもとの対応

第6回：言葉を豊かに育む活動(3)

・言語教材としての絵本の意義

・デジタル教材の利用と保育現場の実際及び言語教材を用いた指導案の作成

第7回：言葉を豊かに育む活動(4)

・お話等の指導法と情報機器の利用について

・お話等の実践による指導案作成及び模擬保育

第8回：言葉の年間授業計画と幼稚園、保育園、こども園と小学校との連携

テキスト

「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館)

「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館)

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)

参考書・参考資料等

「保育内容 言葉」第3版(シートブック)榎沢良彦・入江礼子編著(建帛社)(ISBN:9784767950686)

「保育内容『言葉』最新保育講座10 柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編(ミネルヴァ書房)

(ISBN:9784623056415)

「子どもの遊びの世界を知り、学び、考える!」小田 豊著(ひかりのくに)(ISBN:9784564607875)

「子どもの心をつかむ保育者」小田 豊著(ひかりのくに)(ISBNコード:9784564600937)

「かかわりあって育つ子どもたちー2歳から5歳の発達と保育ー」西川由紀子著(かもがわ出版)

(ISBN:9784780306330)

学生に対する評価

科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する

(評価はルーブリック評価を用い行う)

授業科目名	単位数	学習形態
こどもの指導法「リズム表現」	1単位	スクーリング
授業のテーマ及び学習成果		
<p>保育内容を理解し、表現遊びを展開するために必要な知識や技術を表現領域から見出し、保育指導法を修得していくことを目的とする。また、こどもの表現の指導援助者として、保育内で扱う教材について必要な知識も併せて修得する。</p> <p>表現に関する知識や保育技術の修得と、実践を通じた感性や人間力の育成を目指す。</p>		
≪学習成果≫		
<p>スクーリング：保育内容を理解し、こどもの音楽表現遊び、身体表現遊びを展開するために必要な知識や技術を音楽表現的領域、身体表現領域、言語表現領域、造形表現的領域から見出し、保育指導法を修得していくことを目的とする。また、こどもの音楽表現、身体表現の指導援助者として、保育内で扱う教材について必要な知識も合わせて習得する。</p>		
授業の概要		
<p>幼児にとって、音楽と身体は自己表現と切り離せないほど密接な関係にある。本授業では幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」の内容を主軸として他領域での知識や技能と関連させながら、こどもにとっての表現について、その意義、効果的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践方法を自らの音楽表現や身体表現、言語表現、造形表現から学習する。さらに、小学校以降の教科とのつながりを見通した授業構想を指導案作成と共に実践できるよう、指導援助者としてあるべき姿を追求していく。</p>		
実務経験の概要		
授業計画 スクーリングによる面接授業		
<ol style="list-style-type: none"> 領域「表現」についての基本的な考え方 <ol style="list-style-type: none"> ①古代から近代における幼児教育の歴史的系譜をもとに「表現」についての洞察 ②幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」の指導において求められる表現の捉え方と評価及び小学校の教科等とのつながりについての理解 基礎リズム <ol style="list-style-type: none"> ①歩く、走る、スキップ、ギャロップなどの基礎リズムパターンの理解と指導上の留意点 ②幼児期の身体的・精神的発達をふまえた指導法の理解 基本動作 <ol style="list-style-type: none"> ①幼児の心情・認識・思考及び動き等をふまえた基本動作の実践 ②日常生活が表現につながる可能性に気づき、観察や模倣を通して幼児のイメージを豊かにする指導法の実践 タブレット等の情報機器を用いた多様な振り付けの実践と理解 <ol style="list-style-type: none"> ①童謡やわらべうたについてタブレット等の情報機器や動作カードを活用した多様な振付の実践 ②幼児の表現したい気持ちを育む指導法の実践 楽器の製作と活用、製作した楽器を用いての指導案の作成 <ol style="list-style-type: none"> ①楽器の取り扱いと身近な素材を使ったオリジナル楽器の製作と活用 ②指導案作成の基礎を理解し、オリジナル楽器を使った指導案の作成 領域「表現」と小学校教科等のつながり <ol style="list-style-type: none"> ①オノマトペ（擬態語・擬音語・擬声語）の表現方法について ②領域「表現」と小学校教科等とのつながり 表現する力を育てるための保育者の役割と援助について、模擬保育の実践と振り返り <ol style="list-style-type: none"> ①絵本のストーリーを取り入れた模擬保育の実践 ②保育構想発展のための相互発表による振り返り リズム遊びを用いた模擬保育の実践と振り返り 		

- ①幼児が持つ表現への意欲と喜びを育むリズム遊びの創作
- ②創作したリズム遊びを取り入れた模擬保育の実践
- ③保育構想発展のための相互発表による振り返り

テキスト

- 「幼稚園教育要領解説」(最新版) (フレーベル館)
- 「保育所保育指針解説」(最新版) (フレーベル館)
- 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版) (フレーベル館)

参考書・参考資料等

- 「1～5歳のかたんリトミック」 神原雅之監修 (ナツメ社) (ISBN : 9784816354083)
- 「リズム&ゲームにどっぷり!リトミック77選」
神原雅之編、井上恵理・菅沼邦子・小見英晴・有谷英彰著 (明治図書出版) (ISBN : 9784187700168)
- 「乳幼児のダンスABC」 猪崎弥生・山田悠莉著 (一二三書房) (ISBN : 9784891991524)

学生に対する評価

科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する
(評価はルーブリック評価を用いる)

授業科目名	単位数	学習形態
こどもの指導法「造形表現」	1単位	スクーリング
授業のテーマ及び学習成果		
<p>保育の内容を理解し、乳幼児を含めたこどもの造形の指導援助者として、こどもの発達と保育の中で取り扱う教材に必要な知識、さらに材料・用具の操作体験など実践学習を通して、体験的・技術的に学習する。</p> <p>《学習成果》</p> <p>スクーリング：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できる。 2. 乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できる。 3. 乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できる。 		
授業の概要		
<p>乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な表現の特徴を理解する学習をする。さらに材料・用具、手法をもとに「えがく」「つくる」「造形あそび」などの題材や環境構成、援助のあり方についての知識と製作体験とを関連づけながら学習を深める。</p>		
実務経験の概要		
授業計画 スクーリングによる面接授業		
<p>第1回：幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園 教育・保育要領における「表現」領域及び小学校との連携（「図画工作」の学習指導要領）</p> <p>第2回：造形教育の思想と指導法の推移及びこどもの発達段階における表現の特徴</p> <p>第3回：こどもの発達段階における表現の指導・援助（指導案）と評価</p> <p>第4回：教材研究を伴う製作Ⅰ（えがく）</p> <p>第5回：教材研究を伴う製作Ⅱ（つくる）</p> <p>第6回：教材研究を伴う製作Ⅲ（造形あそび）</p> <p>第7回：実践的な指導法（模擬保育等）の学習（えがく・つくる・造形あそび）</p> <p>第8回：えがく、つくる、造形あそびの保育展開（指導法）と情報機器及び教材の活用 まとめ</p>		
テキスト		
<p>「造形表現論」（配本テキスト）</p> <p>「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレール館）</p> <p>「保育所保育指針解説」（最新版）（フレール館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレール館）</p>		
参考書・参考資料等		
特になし		
学生に対する評価		
<p>科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する （評価はルーブリック評価を用い行う）</p>		

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
こどもの指導法「言語表現」	1単位	スクーリング
授業のテーマ及び学習成果		
<p>本授業は、乳幼児期における各発達段階のこどもに相応しい言語表現活動の展開と指導法を学習し、乳幼児期のこどもの言語表現活動を指導することができるような基本的知識と技法を身につけることを目標とする。</p> <p>《学習成果》</p> <p>スクーリング：乳幼児期の発達に応じた言語表現活動の指導法について述べるができる。言語表現活動をするための基本的な知識を身につけ実践することができる。</p>		
授業の概要		
<p>幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」と、幼児の心の表現を学び、言語表現に利用できる児童文化財の作成を試みる。作成した児童文化財を用いての表現演習を通して、言語表現活動の指導法について、問題点を出し合い、解決する力を身につける。また、国内外の実践保育について調査し、その取り組みについて考える。</p>		
実務経験の概要		
授業計画 スクーリングによる面接授業		
<p>第1回：こどもの言語表現指導法と指導案の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」の内容 ・言語表現の指導法及び指導案の作成 <p>第2回：児童文化財による乳幼児の言語表現活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語表現活動の意義と範囲 ・言語表現教材の指導法及び模擬保育の指導法 <p>第3回：言語表現が豊かになる児童文化財の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせや紙芝居等の活用と留意点 ・わらべ歌遊びや言葉遊び等の活用と留意点 <p>第4回：言語表現を育む児童文化財の作成とその指導(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材の作成と情報機器の活用法 ・絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材活用の指導法 <p>第5回：言語表現を育む児童文化財の作成とその指導(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材と情報機器を活用した指導案の作成 ・絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等による模擬保育と評価方法・振り返り <p>第6回：言語表現を育む児童文化財の作成とその指導(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等の意義及び教材の活用と指導法 ・わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等のAV教材活用と留意点 <p>第7回：言語表現を育む児童文化財の作成とその指導(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等のAV教材を活用した、指導案の作成と評価方法 ・わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等の模擬保育と振り返り <p>第8回：年間指導計画への位置づけと指導案の作成、並びに保幼小連携について</p>		
テキスト		
<p>「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「保幼連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p>		

参考書・参考資料等

「紙芝居―共感のよろこび」まついのりこ著（童心社）（ISBN：9784494022359）

「アプローチ児童文学」関口安義編（翰林書房）（ISBN：9784877372576）

「えほんのせかい こどものせかい」松岡享子著（文春文庫）（ISBN：9784167909468）

学生に対する評価

科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する
（評価はルーブリック評価を用いる）

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
こどもの指導法「音楽表現」	2単位	スクーリング
授業のテーマ及び学習成果		
<p>領域「表現」の「音楽表現」に視点を置き、領域「表現」の全体目標への到達を目指し、より具体的、実践的、対話的な保育実践の方法を習得する。</p>		
<p>《学習成果》</p>		
<p>スクーリング：感性と表現に関する領域「表現」のねらいと内容を理解するとともに、音楽表現活動に必要な知識を習得し、理解を深める。また、模擬保育を行い、実践力を高める。</p>		
授業の概要		
<p>領域「表現」は、幼児期の終わりまでに育ってほしい「豊かな感性と表現」を育む重要な領域である。領域「表現」の目標を理解するとともに、音楽を通した様々な表現活動の在り方や実践の方法を具体的に理解する。また、小学校における教科「音楽」とのつながりについても理解する。</p>		
実務経験の概要		
授業計画 スクーリングによる面接授業		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「表現」における目標と「ねらい」及び「内容」の理解 表現活動を支える伴奏についての基礎知識の習得と実践 2. 乳幼児の発達過程に応じた音楽表現の理解 表現活動における伴奏の方法と実践 3. 映像視聴による身近にある音風景「自然の音」「身の周りの音」への気付きと表現方法 サウンドスケープや映像視聴などの実践と楽器による表現及び伴奏法 4. 声の仕組み、「歌う」表現活動の理解 乳幼児の発達とその表現活動を促す伴奏法 5. 映像を活用した0、1、2歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践 乳幼児の「声」に合わせた表現活動を育む伴奏法 6. 映像を活用した3、4、5歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践 乳幼児の「声」に合わせた表現活動を支え引き出す伴奏法 7. 「わらべうた」や「伝承あそび」などにおける実践 「わらべうた」や「伝承あそび」などに親しむための指導法 8. 領域「表現」と他の領域とのかかわりの理解と応用 他の領域と関連した生活や行事などをテーマにした曲の理解と弾き歌いの実践 9. 器楽による表現活動の理解と実践 乳幼児の「楽器あそび」や器楽合奏に親しむための指導法 10. 指導計画に基づいた指導案の作成のポイントと模擬授業の進め方 模擬保育に使用する歌や曲の教材研究と伴奏法の実践 11. 模擬保育「いろいろな音を集めてあそぼう」の実践と指導案の討議 模擬保育での弾き歌い・伴奏法の実践 12. 模擬保育「わらべうた・伝承遊びを楽しむ」の実践と指導案の討議 模擬保育でのわらべうた・伝承あそびの弾き歌いと伴奏法の実践 13. 模擬保育「自然物や身近な素材を活かして楽器あそびをしよう」の実践と指導案の討議 模擬保育での弾き歌い及び楽器あそびの教材研究と伴奏法の実践 14. ポートフォリオなどを活用した「音楽表現の可視化」の実践と「学びの振り返り」の理解 保育活動を音楽表現で構成する手法と伴奏法の実践 15. 小学校1年生、教科「音楽」への接続と学びの連続性についての理解とまとめ 		
テキスト		
<p>「こどもと音楽表現」（配本テキスト）</p>		

- 「音楽表現論」(配本テキスト)
「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館)
「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館)
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)

参考書・参考資料等

- 「領域「表現」子どもと楽しむための音楽表現 ～のびのびと心と身体を育む～」柳澤邦子編著
(フレーベル館)(ISBN:9784577813706)
- 「新版 実践 保育内容シリーズ⑤ 音楽表現」谷田貝公昭監修、三森桂子、小嶋エマ編著(一藝社)
(ISBN:9784863591608)
- 「たのしく遊べるこどものうた改訂版」大山美和子、田中常雄、磯貝静江、茨木金吾著(鈴木出版)
(ISBN:9784790270416)
- 「改訂幼児のための音楽教育」神原雅之、鈴木恵津子編著(教育芸術社)(ISBN:9784877888220)
- 「年中使える!先生と園児のための♪こどものうた130+20」森真奈美、秋山さやか、石井由希子、川田千春、
渋谷絵梨香、鈴木奈美、横山潤子ピアノ編曲(ヤマハミュージックメディア)(ISBN:9784636950090)
- 「やさしく弾けるピアノ伴奏 保育のうた12か月」河本芳子編曲(新星出版社)(ISBN:9784405071391)
- 「新版和音伴奏による幼児のうた100曲」在原章子、菊本哲也、柳田憲一、山内悠子共著(全音楽譜出版社)
(ISBN:9784116200561)
- 「保育で使える 合奏楽譜ベストセレクション」佐藤千賀子編著(ひかりのくに)(ISBN:9784564609176)
- 「これで安心!保育指導案の書き方」開 仁志編著(北大路書房)(ISBN:9784762826214)

学生に対する評価

科目の成績評価:スクーリングにおける受講態度や実技技能評価及び、単位認定試験結果を総合的に評価する
(評価はルーブリック評価を用いる)

授業科目名	単位数	学習形態
教育方法論	2単位	レポート・科目試験
授業のテーマ及び学習成果		
<p>教育方法の定義、意義、守備範囲の概念についての基本的知識を習得し、教育目標、教育内容、評価との関係性についての理解を深めるとともに、教育（保育）現場における様々な課題を解決する教育（保育）方法とその活用についての理解を深め、保育者として必要な資質を培う。</p> <p>《学習成果》</p> <p>レポート：教材・教具の活用について理解できる。 幼児の理解と幼児教育（保育）の方法について理解できる。</p> <p>科目試験：教育方法の変遷について理解できる。 学習方法、授業分析および評価について理解できる。 教育メディア、教材・教具、特にICT機器の活用について理解できる。</p>		
授業の概要		
<p>教育方法とは何か。その定義と意義、守備範囲についての知識を習得したのちに、教育方法の歴史の変遷を概観することをとおして、先人がどのような思想のもとに教育方法を展開してきたのかを考察する。さらに、教育に活用できる情報機器、教材・教具についての理解を深めたのちに学習指導の理論と授業の方法、および評価について理解する。後半では、幼児教育（保育）の方法、並びに小学校教育との連続について考察する。最後に教育方法の課題と今後の展望について検討する。</p>		
実務経験の概要		
授業計画 テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育方法の定義・意義と守備範囲 2. 教育方法の歴史的展開1（西欧の教育方法） 3. 教育方法の歴史的展開2（近・現代の教育方法） 4. 教育方法の歴史的展開3（日本の教育方法） 5. 教育技術の革新と情報機器の活用 6. 教材・教具の理解と活用 7. 特色ある授業実践 8. 教育現場における授業技術 9. 授業分析と授業評価 10. 授業展開の構想 11. 幼児の理解と幼児教育（保育）の方法（生徒指導との関係も踏まえて） 12. 近代以降の幼児教育（保育）方法 13. 幼稚園教育要領と幼保連携型認定こども園教育・保育要領 14. 幼児教育（保育）内容と小学校の教育内容 15. 教育方法の課題と展望 		
テキスト		
「教育方法論」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）		
参考書・参考資料等		
「小学校学習指導要領（解説書含む）」 「幼児学用語集」小田 豊等監修（北大路書房）2013年（ISBN：9784762828119）		

学生に対する評価

学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する
(評価はルーブリック評価を用いる)

科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する
(評価はルーブリック評価を用いる)

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
こどもの理解と相談支援	2単位	レポート・科目試験
授業のテーマ及び学習成果		
<p>こどもを理解するために、乳幼児の発達及び学び並びにその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理について学びます。また、その対応の一つの幼児教育（保育）現場における相談支援を学び、こどもが自己理解を深め、好ましい人間関係を築き、集団の中で適応的に生活する力を育むことを支援できることを目指します。そのために、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動の在り方について、こどもの発達の状況に即した支援ができるよう、心理的特質や教育的課題を捉える力を身につけるとともに、本人またはその親や保育者などに助言、指導、そして場合によってはカウンセリングを行えるようになることを目指します。この授業では、より良い教育の方向を求めて指導助言ができる基礎理論と実際について学びます。</p> <p>《学習成果》</p> <p>レポ ー ト：幼児教育の課題と家庭との連携の在り方、心理アセスメントの活用について理解できるようになる。</p> <p>科 目 試 験：カウンセリングの基本と心理アセスメントの活用、保・幼・小及び家庭との連携が理解できるようになる。</p>		
授業の概要		
<p>相談支援の究極的な目的は、こどもの人間形成、人格形成にある。幼児、児童、生徒を対象にした現場における相談支援に重点を置き、発達と成長の基礎理論、生活指導、しつけ、学習適応等について学ぶ。また、カウンセリングの基本的態度や技法について学び、様々な心理アセスメントの内容・活用について理解を深める。</p>		
実務経験の概要		
授業計画 テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> 1. こどもの実態に応じた発達や学びの把握（こどもの理解の意義、養護保育の一体的展開、幼児理解を深める教師の基礎的な態度） 2. 相談支援の基本 相談支援の基本・カウンセリングの基本（意義・理論）とカウンセリングの基本的な方法（受容的態度と共感、傾聴） 3. こどもを理解する視点①（こどもの生活や遊び、保育の人的環境、こども相互の関わり、集団における経験） 4. こどもを理解する視点②（葛藤やつまずき、保育環境の理解と構成、環境の変化や移行） 5. こどもを理解する方法①（知能検査・発達検査・行動観察法、他） 6. こどもを理解する方法②（観察・記録・省察・評価） 7. こどもを理解する方法③（職員間の情報共有、保護者との情報共有） 8. こどもの自己理解を進める技法 こどもの自己表現と自己理解の発達 9. 幼児・こども理解とカウンセリング・マインド（実際のカウンセリングと教師の行う相談支援の違いを理解する・教師の行う相談支援の理解を深める） 10. 幼稚園・保育園における園児への心理的援助及びその保護者との相談支援 11. 小学校における児童への心理的援助及びその保護者との相談支援 12. 相談支援の実際①（発達障害、知的障害、自閉・情緒障害、特別な配慮を要するこどもたち） 13. 相談支援の実際②（不登園・不登校、いじめ、虐待・非行と小・中学生の心理アセスメント） 14. 相談支援と家庭・学校・地域との連携と相談支援（幼・小の連携、親との連携） 15. 相談支援の課題と対応（教育相談における校内支援体制、相談支援計画の作成） 		
テキスト		
<p>「こどもの理解と相談支援」（配本テキスト）</p> <p>「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレール館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレール館）</p>		

参考書・参考資料等

「小学校学習指導要領」及び「小学校学習指導要領解説書」

学生に対する評価

学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する
(評価はルーブリック評価を用いる)

科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する
(評価はルーブリック評価を用いる)

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
こどもの理解と援助	1 単位	スクーリング
授業のテーマ及び学習成果		
<p>保育者には、子どもを理解したうえでの援助が求められる。本授業科目では、子ども理解を深めるための様々な視点や方法を学ぶとともに、それを踏まえた上での援助の考え方や方法について学ぶ。</p> <p>《学習成果》</p> <p>スクーリング：子ども理解と援助について、授業計画の各項目について理解し、それを踏まえて将来の実践にどのように活かしたいか考えることができる。</p>		
授業の概要		
<p>授業計画の1～8では以下のことを習得することを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。 		
実務経験の概要		
授業計画 スクーリングによる面接授業		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの実態に応じた発達や学びの把握① <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育における子どもの理解の意義 (2) 子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開 2. 子どもの実態に応じた発達や学びの把握② <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり 3. 子どもを理解する視点① <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの生活や遊び (2) 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達 (3) 子ども相互の関わりと関係づくり (4) 集団における経験と育ち 4. 子どもを理解する視点② <ol style="list-style-type: none"> (1) 葛藤やつまずき (2) 保育の環境の理解と構成 (3) 環境の変化や移行 5. 子どもを理解する方法① <ol style="list-style-type: none"> (1) 観察 (2) 記録 6. 子どもを理解する方法② <ol style="list-style-type: none"> (1) 省察・評価 (2) 職員間の対話 (3) 保護者との情報の共有 7. 子どもの理解に基づく発達援助① <ol style="list-style-type: none"> (1) 発達の課題に応じた援助と関わり (2) 特別な配慮を要する子どもの理解と援助 8. 子どもの理解に基づく発達援助② <ol style="list-style-type: none"> (1) 発達の連続性と就学への支援 		

テキスト

「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館)

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する
(評価はルーブリック評価を用い行う)

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
乳幼児保育 I	2 単位	レポート・科目試験
授業のテーマ及び学習成果		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児保育の意義・概念と歴史の変遷及び背景と制度について理解する。 2. 保育所、家庭的保育等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳幼児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 		
≪学習成果≫		
レポ ー ト：乳幼児保育について、発達段階ごとの特徴と具体的な援助について理解できる。		
科 目 試 験：乳幼児の発達の法則、発達の特徴、及び乳幼児の援助について具体的に理解できる。		
授業の概要		
乳幼児保育の歩みと現状、乳幼児の発達上の特徴など、基本的な知識について学び、その意義や必要性を理解できるようにする。人としての基礎を培う大切な乳幼児期に関わる保育者の役割を理解し、適切な保育の計画や方法、保護者への支援の習得を目指す。		
実務経験の概要		
授業計画 テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児保育の意義・概念と歴史の変遷 2. 乳幼児保育の一般化への経緯 3. 乳幼児保育及び子育てで家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 4. 保育所における乳幼児保育 5. 保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳幼児保育 6. 家庭的保育等における乳幼児保育 7. 3歳未満児の生活と環境 8. 3歳未満児の遊びと環境 9. 3歳以上児の保育に移行する時期の保育 10. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり 11. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮 12. 乳幼児保育における計画・記録・評価とその意義 13. 職員間の連携・協働 14. 保護者との連携・協働 15. 乳幼児保育と子育て支援 		
テキスト		
「乳幼児保育 I」（配本テキスト）		
「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）		
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）		
参考書・参考資料等		
特になし		
学生に対する評価		
学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する （評価はルーブリック評価を用いる）		
科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する （評価はルーブリック評価を用いる）		

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
乳幼児保育Ⅱ	1単位	スクーリング
授業のテーマ及び学習成果		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助や関わりの方針について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳幼児保育における配慮の実践について、具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳幼児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 		
≪学習成果≫		
スクーリング：乳幼児保育の果たす役割について具体的な援助方法や保護者支援を理解できる。		
授業の概要		
乳幼児保育の歩みと現状、乳幼児の発達上の特徴など、基本的な知識について学び、その意義や必要性を理解できるようにする。人としての基礎を培う大切な乳幼児期に関わる保育者の役割を理解し適切な保育の計画や方法、保護者への支援の習得を目指す。		
実務経験の概要		
授業計画 スクーリングによる面接授業		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもと保育士等との関係の重要性 2. 子どもの主体性の尊重と自己の育ち 3. 子どもの1日の生活の流れと保育の環境 4. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活の援助の実践 5. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実践 6. 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 7. 集団生活における配慮 8. 乳幼児保育における指導計画・連携 		
テキスト		
「乳幼児保育Ⅰ」（配本テキスト） 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）		
参考書・参考資料等		
特になし		
学生に対する評価		
科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する （評価はルーブリック評価を用いる）		

授業科目名	単位数	学習形態
社会的養護Ⅱ	1単位	スクーリング
授業のテーマ及び学習成果		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的内容について具体的に理解する 2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する 3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する 4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する 5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する 		
≪学習成果≫		
スクーリング：社会的養護の対象の子どもを理解し、その困難を共に支えるための技術、知識、価値観を身に付ける。		
授業の概要		
スクーリングによる体験的な授業で、コミュニケーション力、リーダーシップなど必要な技術と、ネットワーク運営のための技術を身に付ける。		
実務経験の概要		
授業計画 スクーリングによる面接授業		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的養護の子どもの理解 2. 自立支援 3. 相談援助の知識と技術1（コミュニケーション） 4. 相談援助の知識と技術2（リーダーシップ） 5. 相談援助の知識と技術3（コーチング） 6. ネットワークの知識と技術1（ディスカッション） 7. ネットワークの知識と技術2（チームビルディング） 8. 社会的養護の課題と展望 		
テキスト		
「保育所保育指針解説」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）		
参考書・参考資料等		
特になし		
学生に対する評価		
科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する （評価はルーブリック評価を用いる）		

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
教育実習事前・事後指導	1単位	事前スクーリング・事後スクーリング
授業のテーマ及び学習成果		
<p>実習に向けて、学習の意義・目的を理解し、保育について知識・技能・態度等を総合的に学ぶ。</p> <p>《学習成果》</p> <p>スクーリング：教育実習で行う手続き・準備・心構えを確認し、実習中に行う実技等を身に付ける。</p>		
授業の概要		
<p>教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学ぶ。また、幼児の発達の特長や発達過程を踏まえ、幼児理解や観察の視点・方法、指導案作成等の習得に努めるとともに、目標を持って実習に臨む態度を育成する。また、実習後、総括と自己評価を行い、課題や目標を明確にする。</p>		
実務経験の概要		
授業計画 スクーリングによる面接授業		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の意義と目的 <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育の特質 ・実習の意義と目的 ・保育者としての倫理（守秘義務 職務に専念する義務 等） 2. 教育実習の流れと手続き、その内容 <ul style="list-style-type: none"> ・実習生としての心構え ・事前相談・打ち合わせ 3. 観察・参加・責任実習 <ul style="list-style-type: none"> ・長期指導計画・短期指導計画 ・子どもを取り巻く環境（環境構成） ・幼児理解と保育 4. 教師の援助 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者理解と支援 ・特別な支援を要する子どもへの対応 5. 実践演習 <ul style="list-style-type: none"> ・手遊び、読み聞かせ 6. 指導案作成(1) ・指導案とは何か 7. 指導案作成(2) ・指導案作成の実際 8. 実習の総括と評価、課題の明確化 <ul style="list-style-type: none"> ・幼児理解と学び ・保育者の活動からの学び 		
テキスト		
<p>「教育実習事前・事後指導」（配本テキスト）</p> <p>「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレール館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレール館）</p>		
参考書・参考資料等		
特になし		
学生に対する評価		
<p>科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する （評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>※事前指導スクーリングでは（学習のまとめ）も含めて100点満点で評価し、60点以上で合格すれば、教育実習申込条件の一つ満たします。事後指導スクーリングにおいて、100点満点で評価し、成績評価を行います。</p>		

授業科目名	単位数	学習形態
保育実習指導Ⅰ	2単位	事前スクーリング・事前及び事後レポート
授業のテーマ及び学習成果		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。保育所・認定こども園・児童福祉施設のそれぞれの意義を知る。 2. 実習の流れと実習の心得を学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> ① 実習の種類（参観実習・参加実習・責任実習）を学ぶ。 ② 社会人のマナーや、ほうれんそう（報告・連絡・相談）の重要性を知る。 3. 実習の目標・実習課題を学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> ① 実習課題の設定の仕方を学ぶ ② 指導案の意味と立て方を学ぶ ③ 実習日誌の書き方を学ぶ 4. 事後指導では、実習の振り返りと自己評価を行い、新たな課題・目標を設定する。 		
≪学習成果≫		
<p>レポート：保育実習の意義・目的、児童福祉施設の種類と役割について理解できる。実習後は、実習の振り返りと自己評価を行い、新たな課題・学習目標を設定できる。</p> <p>スクーリング：実習の流れ・心得を学ぶとともに、乳幼児の年齢別発達の特徴、実習日誌の書き方および指導計画の立て方を身につける。</p>		
授業の概要		
<p>実習の意義・目的を理解し、今までの学びを考えながら、子どもをどう援助していくか演習を通して考える。実習の流れと心得をテキスト中心に学び、自分の実習課題を考える。（演習）保育指導案・実習日誌の書き方を学ぶ。事後指導では、実習の振り返り・自己評価を行い新たな課題や目標を設定する。</p>		
実務経験の概要		
授業計画 テキストによる通信授業とスクーリングによる面接授業		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の意義・目的を理解する 2. 保育所とは何か、その現状と課題 3. 新保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 4. 保育所の職場構成と連携 5. 社会人のマナー ほうれんそう（報告・連絡・相談）の重要性 6. 乳幼児の年齢別発達の特徴 7. 緊急時の対応（ケガ・地震・火事等）、事故予防について 8. 実習の種類（参観実習・参加実習・責任実習）とは何か 9. 実習日誌の書き方・保育指導案の立て方 10. 保育技術の利用 絵本の読み方・手遊びの仕方・ピアノ等 11. 児童福祉施設の種別および特徴 12. 社会的養護の原理・原則および支援について 13. プライバシーの保護と守秘義務 14. 児童福祉施設他職種および他機関との連携の仕方 15. 事後学習 実習の総括と自己評価 新たな課題や自己目標の明確化 		
テキスト		
<p>「保育実習指導」（配本テキスト）</p> <p>「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p>		
参考書・参考資料等		
<p>随時資料配布</p>		

学生に対する評価

【通信授業】

学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する
(評価はルーブリック評価を用いる)

【面接授業】

科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する
(評価はルーブリック評価を用いる)

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
保育実習指導Ⅱ	1単位	事前及び事後レポート
授業のテーマ及び学習成果		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習Ⅱの目的は、保育実習Ⅰで学習した保育所における保育の学びをさらに深め、発達援助の技術、生活援助の技術、関係性構築の技術、環境構成の技術、遊びを展開する技術等について専門性と実践力を磨くことにある。 2. 今まで大学で学習した知識をどのように使いながら保育をしていくのかを学び、実践力と専門性を高める。 3. 実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題を明確にする。 		
《学習成果》		
レポ ー ト：1. 保育実習Ⅰの振り返りと実践的な自己課題の設定ができる。 2. 実習を振り返り、保育所の保育者や子どもの実際について理解できる。		
授業の概要		
<p>保育現場での保育実践を、自分の物として身に付けられる事をねらいとする。他授業で学んだ知識および保育実習Ⅰで学んだ内容を振り返り、実習で生かせるように準備する。</p> <p>また、保育の援助技術とは何かについて理解し、実習を通して、保育の援助技術を自分の物として身に付け専門性を高められるようにする。そして、それらのねらいの全てが子どもの「最善の利益を保障する」ためのものであることを確認する。</p>		
実務経験の概要		
授業計画 テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習Ⅰの振り返りと実践的な自己課題の決定（何々について研究的に学びたい、頑張りたい等の決意） 2. 保育知識のおさらいと実習で身に付けてきてほしいこと(1) 子どもの発達、5領域のねらいと現場での視点 3. 保育知識のおさらいと実習で身に付けてきてほしいこと(2) 子どもの基本的な生活習慣の獲得と保育支援 4. 保育知識のおさらいと実習で身に付けてきてほしいこと(3) 遊びを展開するための知識等と環境設定の技術 5. 保育知識のおさらいと実習で身に付けてきてほしいこと(4) 子どもの心に寄り添うとは何かについて 6. 保育知識のおさらいと実習で身に付けてきてほしいこと(5) 環境構成の技術と人間関係構築の技術 7. 責任実習に向けての保育指導案の立案の仕方と実施のための留意点 8. 実習上の諸注意のまとめ（含む、保育者としての倫理、守秘義務、プライバシーの保護） 		
テキスト		
「保育実習指導」（配本テキスト） 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）		
参考書・参考資料等		
「幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド」小櫃智子他著（わかば社）（ISBN：9784907270193）		
学生に対する評価		
学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する （評価はルーブリック評価を用いる）		

授業科目名	単位数	学習形態
保育実習指導Ⅲ	1単位	事前及び事後レポート
授業のテーマ及び学習成果		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設における保育者の専門性について理解する。 2. 児童福祉施設に暮らす子どもや親について理解する。 3. 児童福祉以外の社会福祉施設について知る。 4. 老人福祉・障害者福祉における保育者の役割等簡単に理解する。 5. 施設内の連携、他機関との連携について理解する。 6. 実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題を明確にする。 		
≪学習成果≫		
<p>レポート：1. 子ども支援、親支援の現状について、保育実習Ⅰの経験を振り返りながら考えることができる。</p> <p>2. 実習を振り返り、実習施設種の抱える問題、そこで働く職員の職種と職務内容、子どもたちが置かれた現状について理解できる。</p>		
授業の概要		
施設種により保育者の仕事の具体的な支援内容は異なる。自分の行く実習施設種を中心に事前レポート、事後レポートなどで学習する。		
実務経験の概要		
授業計画 テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設の施設種の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・施設の現状と問題点について 2. 社会的養護の現状について 3. 自分の行く実習施設種を中心とした実習施設の現状と問題点 4. 児童福祉施設における子ども支援、親支援の現状について（保育実習Ⅰの経験を振り返りながら考える） <ol style="list-style-type: none"> ①乳児院・児童福祉施設等への入所理由の理解と子ども支援・親支援の実際 ②障がい（児・者）の障がい特徴と支援上の留意点 ③老人関係の施設種と老人の福祉について 5. 社会的弱者支援の基本を知る（1） <ul style="list-style-type: none"> ノーマライゼーションの意味を理解し、どのような支援を通して実践しているかを知る 6. 社会的弱者支援の基本を知る（2） <ul style="list-style-type: none"> 人権の保護とエンパワメント（人権侵害とは何か）について知る 7. 個別支援計画と他機関との連携について 8. 事後指導における実習の総括と評価 <ul style="list-style-type: none"> ・実習の総括と自己評価 ・自分の保育者としての課題の明確化 		
テキスト		
「保育実習指導」（配本テキスト） 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）		
参考書・参考資料等		
「施設実習パーフェクトガイド」小櫃智子他著（わかば社）（ISBN：9784907270094）		
学生に対する評価		
学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する （レポート評価はルーブリック評価を用いる）		

授業科目名	単位数	学習形態
幼児専攻 保育・教職実践演習(幼稚園)	2単位	レポート・科目試験・スクーリング
授業のテーマ及び学習成果		
通信授業で学んだ学習知と教育実習で得られた実践知を統合し、確かな実践的指導力を身に付ける。		
〈学習成果〉		
レポート：保育における集団の編成についての学びをレポートすることにより、幼稚園教育の理解へと発展させる。		
科目試験：幼稚園教育において特に重要な学習知を確認して、より実践的な教員の養成を図る。		
スクーリング：通信授業における学習知を基に、実践知を統合して確かな実践的指導力を身に付け、教職への意欲を醸成する。		
授業の概要		
これまでに形成された資質能力を確認し、これからの自己の課題の自覚と克服に努める。教職生活を円滑にスタートできるように、学校現場の視点に立った様々な場面でのリスクマネジメントや保育カンファレンス及び保育実技を通して、実践的指導力を身に付ける。		
実務経験の概要		
授業計画 テキストによる通信授業とスクーリングによる面接授業		
【通信授業】	【面接授業】	
1. 教師という職業	1. ガイダンス	
2. 学級経営	2. 学級経営における臨床場面での教師の対応Ⅰ（ロールプレイング）	
3. 特別支援教育の基礎	3. 保育場面での対応（事例研究）課題のある子ども（幼児）の事例研究	
4. 特別支援教育と教師・保育者	4. 集団討論Ⅰ「教育課題の解決への教師としてのアプローチ」	
5. 保育における集団の編成	5. 保育計画と模擬保育	
6. 幼児教育の将来的展望	6. 統合保育・異年齢保育に関わる課題と展望	
7. 幼保小連携	7. 「幼保小連携」子どもの生活変化を踏まえた適切な指導の在り方	
	8. 学習のまとめ ・自己の振り返り・今後に向けての課題	
テキスト		
「保育・教職実践演習」（配本テキスト）		
「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレール館）		
「保育所保育指針解説」（最新版）（フレール館）		
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレール館）		
参考書・参考資料等		
特になし		
学生に対する評価		
【通信授業】		
学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）		
科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）		
【面接授業】		
科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する（評価はルーブリック評価を用いる）		
※科目試験50%、スクーリング50%の平均により成績評価を行う		

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
保育専攻 保育・教職実践演習(幼稚園)	2単位	レポート・科目試験・スクーリング
授業のテーマ及び学習成果		
通信授業で学んだ学習知と教育実習で得られた実践知を統合し、確かな実践的指導力を身に付ける。		
《学習成果》		
レポ ー ト：保育における集団の編成についての学びをレポートにすることにより、幼稚園教育の理解へと発展させる。		
科 目 試 験：幼稚園教育において特に重要な学習知を確認して、より実践的な教員の養成を図る。		
スクーリング：通信授業における学習知を基に、実践知を統合して確かな実践的指導力を身に付け、教職への意欲を醸成する。		
授業の概要		
これまでに形成された資質能力を確認し、これからの自己の課題の自覚と克服に努める。教職生活を円滑にスタートできるように、学校現場の視点に立った様々な場面でのリスクマネジメントや保育カンファレンス及び保育実技を通して、実践的指導力を身に付ける。		
実務経験の概要		
授業計画 テキストによる通信授業とスクーリングによる面接授業		
【通信授業】	【面接授業】	
1. 教師という職業	1. ガイダンス	
2. 学級経営	2. 学級経営における臨床場面での教師の対応Ⅰ（ロールプレイング）	
3. 特別支援教育の基礎	3. 保育場面での対応（事例研究）課題のある子ども（幼児）の事例研究	
4. 特別支援教育と教師・保育者	4. 集団討論Ⅰ「教育課題の解決への教師としてのアプローチ」	
5. 保育における集団の編成	5. 保育計画と模擬保育	
6. 幼児教育の将来的展望	6. 統合保育・異年齢保育に関わる課題と展望	
7. 幼保小連携	7. 「幼保小連携」子どもの生活変化を踏まえた適切な指導の在り方	
	8. 学習のまとめ ・ 自己の振り返り ・ 今後に向けての課題	
テキスト		
「保育・教職実践演習」（配本テキスト）		
「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレール館）		
「保育所保育指針解説」（最新版）（フレール館）		
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレール館）		
参考書・参考資料等		
特になし		
学生に対する評価		
【通信授業】		
学習状況の確認：レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する （評価はルーブリック評価を用いる）		
科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する （評価はルーブリック評価を用いる）		
【面接授業】		
科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する （評価はルーブリック評価を用いる）		
※科目試験50%、スクーリング50%の平均により成績評価を行う		